

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名（かがやき特別支援学校草の実分校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	<p>三重県立子ども心身発達医療センターの整形外科及びリハビリテーション科、草の実病棟（以下、「医療センター」という）と連携し、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育・療育の推進に努め、肢体不自由教育のセンター校として県内の肢体不自由教育のコーディネートを担当する学校</p>
(2)	<p>育みたい児童生徒像</p> <p>○学校に来ることが楽しくたまらない、少し難しいことがあっても友達と助け合っ てチャレンジしている。</p> <p>○卒業後や復籍後の姿を具体的に描き、その実現に向けて学力の向上を含め、交流学 習や校外学習で必要に応じてヘルプの発信をして生活力を高めようとしている。</p> <p>○基本的な生活習慣が確立されており、自分を大切にするとともに、仲間を大切にす る心が育っている。</p>
	<p>ありたい教職員像</p> <p>○医療センターとの連携を密に、肢体不自由教育の専門的な知識を有し、共感的まな ざしをもって、授業改善に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○本県の肢体不自由教育を軸とした特別支援教育の推進における自分のポジション を意識し、医療センターや同僚、関係機関との協働を通してキャリアアップに努め ている。</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;児童生徒&gt; 退院後の前籍校への復籍や社会参加につながる技能・知識の習得を望んでいる。また、「わかる授業」等により、楽しい学校生活を送りたいと願っている。</p> <p>&lt;保護者&gt; 児童生徒一人ひとりのニーズにあった教育が行われ、自己実現と社会参加につながる技能・知識を習得し、個々に応じた進路が保障されることを望んでいる。</p> <p>&lt;前籍校、小中学校等&gt; 支援情報の共有や具体的な助言等の支援を期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>&lt;医療センター&gt; 情報の共有や支援の共通理解、役割分担の明確化</p> <p>&lt;関係諸機関&gt; 卒業後の生活を見越した密接な連携と生徒の情報提供。生徒の基本的な生活習慣の確立と保護者の協力</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>&lt;医療センター&gt; 情報共有を図るなど密接な連携とともに、教育環境・内容の充実に係る理解と協力</p> <p>&lt;関係諸機関&gt; 卒業後の進路及び生活に係る情報提供と支援。就労についての理解と、就業体験の機会の増加</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○PT等と連携した授業を実施することによって、児童生徒がどれだけ成長できたかという視点に立って、授業改善の取組を評価する必要がある。</p> <p>○センター的機能として、PT等の助言や知見などを生かした日々の実践事例を小中学校や他の特別支援学校に情報発信できるとよい。</p> <p>○地域の実情も踏まえて様々な災害や被害を想定した防災訓練を行い、医療センターとともに防災上の課題を明らかにし、解決を図る必要がある。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>○自立活動に指導において、引き続き的確な実態把握に努めるとともに、医療センター等の専門家の意見も踏まえて適切な課題を設定し、評価・改善を図る必要がある。</p> <p>○児童生徒の実態（障がいの状況、発達段階等）に応じて効果的にICTを活用できるよう、更に研修を深める必要がある。</p>
	学校運営等	<p>○医療センターや他の特別支援学校と連携した肢体不自由教育に係るセンター的機能を構築するため、小中学校等への支援について体制や方法等を協議し、具体的な手立てを考える必要がある。</p> <p>○防災対策における課題を医療センターやあすなろ分校と共有し、現状を踏まえた危機管理マニュアルの整備を更に進める必要がある。</p> <p>○小規模校で教職員数少ないことを踏まえ、業務を分担し、計画的・効率的に仕事を進める必要がある。</p>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○校内研修において、医療センターとの連携や外部研修の充実を図るとともに、教員同士の知識の共有や基礎基本の見直しを行い、学校全体で専門性の向上を図る。</p> <p>○地域、保護者と協力して策定した小学部から高等部までの一貫した草の実分校のキャリア教育体系について、実践からのフィードバックにより精度を高める。</p> <p>○同年代の児童生徒との交流学习及び共同学習を推進する。</p>
学校運営等	<p>○医療センターの専門家（PT等）と連携し、県内の小中学校における肢体不自由の支援に係る専門性の向上に資するセンター的機能の構築をより進める。</p> <p>○教職員が自分の力を十分に発揮し、助け合いながら業務を行えるよう、校務分掌や業務の見直しを行うとともに、過重労働の削減に取り組む。</p>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
自立活動の指導を中心とした授業の改善	<p>(1) 授業公開に向けた授業研究、校内研修等をとおして、授業改善を図る取組を進める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療センター専門家と連携した授業と事後検討の計画的な実施</li> <li>・授業改善シートの作成及び活用の促進</li> <li>・「かがやきDay」（自主研修日）の設定 等</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組評価アンケートにより、「授業改善に繋がった」と回答した教員の割合：80%以上</li> </ul>	<p>(1) 各取組をとおして、「授業改善に繋がった」と回答した教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家と連携した授業：84.2%</li> <li>・公開授業：89.5%</li> <li>・校内研修：89.5%</li> <li>・かがやきDay：94.7%</li> </ul>	※
	<p>(2) 肢体不自由教育に係る専門性の向上を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療センターの地域支援課と連携し、肢体不自由教育に係る知識・技能の習得を目指した支援プログラムとして、3年間のカリキュラムを作成</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組評価アンケートにより、「主体的に取り組め</li> </ul>	<p>(2) 支援プログラムの実施：5回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的に取り組めた」と回答した教員の割合：84.6%</li> </ul>	※

	<p>た」と回答した教員の割合：80%以上</p> <p>(3) ICT 研修会を開催し、授業での ICT 機器の活用向上を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 研修会の計画的実施</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取組評価アンケートにより、「授業で ICT 機器を活用した」と回答した教員の割合：80%以上</li> </ul>	<p>(3) 「子ども・ICTの見方を広げて、活用計画を立てよう」をテーマに研修を実施（8月21日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「授業で ICT 機器を活用した」と回答した教員の割合：95.2%</li> </ul>	※
--	--	--	---

#### 改善課題

- ・ ICT 機器について、研修会等を行うことにより教員の意欲が向上し、授業で活用する場面が増えた。さらに、実践につなげられるような取組を進める必要がある。
- ・ 研修をとおして提出したり作成したりした成果物を、どのように全体にフィードバックして共通認識を図るかについて検討する必要がある。

#### (2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
医療センターと連携した肢体不自由教育の特色あるセンター的役割の確立	<p>(1) 授業公開として、医療センターの専門家との連携を活用した授業を校外に発信する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家との連携を活用した授業を各学部2例以上公開</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業公開参加者20名以上</li> </ul>	<p>(1) 公開時の授業数：各学部4例、計12例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業公開参加者：29名</li> </ul>	◎
	<p>(2) 外部専門家の活用実践や自立活動教材をデータベース化し、校外に発信する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家等を活用した実践や自立活動教材を使用した取組等の掲載（5例以上）と、教材ライブラリーの開設</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者がHPにアクセスした割合：80%以上</li> </ul>	<p>(2) HP への取組事例の掲載：5例</p> <p>教材ライブラリーの開設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者がHPにアクセスした割合：28.6%</li> </ul>	◎
緊急時対応に関する医療センターとの協議等	<p>(1) 危機管理意識の醸成とリスクマネジメント向上の取組を進める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 危機管理マニュアルの整備と職員説明会、避難訓練（医療センターとの合同避難訓練を含めて2回）の実施</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取組評価アンケートにより、「主体的に取り組めた」と回答した教員の割合：80%以上</li> </ul>	<p>(1) 危機管理マニュアルの見直しと職員への配付</p> <p>避難訓練：2回、不審者対応訓練：1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「主体的に取り組めた」と回答した教員の割合：95%</li> </ul>	※
働きやすい職場環境づくり	<p>(1) 校務運営や教職員一人ひとりの勤務を見直し、生き生きと仕事ができる環境づくりを進める。</p>	<p>(1) リフレッシュデー月1回、定時退校週間（8月8日～15日、12月21日～28日）</p>	※

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「リフレッシュデー」（月1回）、「定時退校週間」（年2回）実施</li> <li>・職員会議等の所要時間1時間以内</li> <li>・時間外労働時間の縮減（昨年度比3%減）</li> <li>・休暇取得日数の増加（昨年度比0.5日増）</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組評価アンケートにより、「改善が実感できる」と回答した教員の割合：80%以上</li> </ul>	<p>日）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「改善が実感できる」と回答した教員の割合：81.0%</li> </ul>	
--	--	--	--

### 改善課題

- ・合同避難訓練について、医療センターと分校がお互いの体制や状況等について十分に理解し、実際に近い形で訓練を企画・実施する必要がある。また、反省等を次年度につなげる仕組みをさらに整備する必要がある。
- ・HPについては、行事や授業等を頻繁に更新し、学部通信等で保護者に紹介してきたが、アクセスの割合が低かった。HPに関心を持ってもらえるよう周知するとともに、内容の充実を図る必要がある。
- ・時間外勤務、休暇取得日数ともに微増であった。少人数の学校であることから、さらに会議の精選や優先順位を決めるなど見直しを図る必要がある。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業等については、学校関係者だけでなく幼稚園・保育所、療育関係者、看護師、大学生等にも広くアピールし、肢体不自由に係る専門性向上の取組をさらに推進してほしい。</li> <li>・最近では、地震だけでなく大雨による水害もある。医療センターとは合同訓練など、さらに連携を進めるとともに、地域との情報共有や連携体制についても検討を進める必要がある。</li> </ul>
----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター的機能として、地域支援の場で医療センターのセラピストと小中学校教員等をつなぐ役割について実践事例を積み重ね、当校の役割を明確にする。</li> <li>・医療センターと連携した研修等について内容を充実させるとともに、教員間で指導・支援に係る情報の共有や協議を重ね、肢体不自由に係る専門性の向上を図る。</li> </ul>
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践事例や教材等のHPへの掲載を充実させるとともに、医療センターと連携した研修や公開授業等を対外的に実施し、本校の取組について情報を発信する。</li> <li>・合同防災訓練の実施や危機管理マニュアルのすり合わせ等、医療センターと分校の役割分担を明確にし、具体的に行動できるよう連携・協力体制を充実させる。</li> </ul>